

## 「才能とは努力を継続する力」

校長 桐野 和之

皆さんは、将棋をしたことがあるでしょうか。私は小学校5年生ぐらいの頃に、父から教わりました。将棋の楽しさは、駒の種類によっていろいろな動き方をすることです。その動き方をいろいろ駆使して相手と戦うことに少しずつ魅力を感じていきました。そのうちにクラスの仲間たちと一生懸命に将棋をさしました。クラスの中にはいろいろな攻め方を知っている子がおり、すごく強く何度やっても勝てませんでした。その子に攻められるとその場をしのぐのが精一杯で、もちろん、一手先を読むなんてことは全くできませんでした。そのうち、自分の将棋の熱も冷めてしまいました。



ところで、将棋をする人を「棋士」と言います。誰もが知る有名な棋士に「羽生善治」さんという方がいます。テレビや新聞の報道などで見て知っている人もいると思います。羽生さんは「将棋の神さま」と言われている人です。ある日、テレビで羽生さんのことを特集した番組が放送されていました。羽生さんは、25歳で7つのタイトルをすべてとった才能豊かな人です。「天才」とも言える羽生さんですが、その真面目な生き方や考え方を知り、私は改めて感動しました。羽生さんは「直感を信じて将棋を打つ」そうです。勝負士らしい言葉だと思います。しかし、「直感」と言っても宝くじを当てるときのようないい加減なものではありません。「直感」とは今までの自分の経験を全部集めて、その中から出てきた良い考えやひらめきのことなのです。「『直感』はたくさん経験を積んで初めて出てくるものだ」と羽生さんは語っていました。皆さんは、これから、たくさんの人と出会い、たくさんを経験するでしょう。一つひとつの経験を大切に、積み重ねて、一人ひとりを持っている「直感」を磨いてほしいと思います。ところが、天才と言っても良い羽生さんが「直感」より大切にしていることがあるということです。それは、「努力を積み重ねること」です。「才能とは『直感』だけではなく、『努力』を積み重ねることである。」と羽生さんは言います。

「直感」は無理だけれども「努力」なら誰でもできそうだった人はいませんか。それなら、皆さんは、20年間、毎日、1時間将棋を続けられますか。普通の人にはなかなかできないと思います。羽生さんが将棋をするのは、1日1時間どころではないでしょう。毎日、当たり前前を当たり前前のようにこつこつと続けられること、同じペースで走り続けることができること、それはものすごいことなのです。「私は天才じゃないからできない」とあきらめるのではなく、ぜひ、続けられることを見付けてください。毎日、少しずつ努力を続けてください。今すぐになりたい職業や続けたいことを見付からなくても焦ることはありません。ふだんからやれることにかまいません。毎日、日記を書くこと、音読をすること、漢字の書き取りをすること、歌を歌うこと、野球の素振りをする、本を読むことなど、すぐにあきらめたり、嫌になったりしないでください。自分の力を信じて、力強く続けてください。自分の経験にもあります。柔道の背負い投げの打ち込みを毎日毎日続けたことで、相手の動きをきちんと体の感覚で捉えて、相手を投げられるようになったことがあります。サボらず続けたことが自分の体に染み込み、体得できたことが。

「才能とは、一瞬のひらめきやきらめきではなく、情熱や努力を継続できる力だ」。羽生さんの言葉を胸に、自分の力を信じて努力ができる人になってほしいと思います。

# 「尾島春夫さんにお目にかかって」

オリンピック・パラリンピック教育アワード校としてボランティアマインドの醸成にあたり、生徒にボランティアについて語ってくれる誰か良い人はいないものか探していた。副校長先生と打ち合わせをした際に「尾島さんのような人に来ていただくことはできませんよね」という一言があった。たぶん私が校長室の入り口側に、「人にかけた情けは水に流せ、受けた恩は石に刻め、人の命は地球より重い」と新聞社の抜粋記事を8月から貼っていたものを見続けていたせいかと思った。内心、「そりゃ難しいよ」と思ったが、面白い、万に一つの可能性にかけてみようかと思いながら、まずは新聞社に電話したことが始まりだった。でもその日のうちに、とんとん拍子に日出町役場の人たちと電話でつながり、翌日に尾島さんのご自宅の電話番号を教えていただき、連絡をとるチャンスをもたらした。



しかし、ここからが長かった。たぶん三十数回にわたり自宅に電話をしたが約3週間、全然つながらない。ボランティアでどこかに出かけているのか。いろいろと推測した。

朝、昼、晩と電話をかけ続けることが日課となっていた時、いつもどおり朝に電話を試みた。すると電話口に尾島さんご自身が出た。出ないと思ってした電話なので逆に驚いてしまった。ビックリ。

用件が電話でうまく伝わるようメモを用意して見ながらしゃべった。だが、講演という言葉に敏感に反応され、講演できる人は「わし以外に100人はおる。わしじゃなくても良いだろ」と言われ、さらに今まで小・中・高のいろいろな学校の校長から依頼を受けたけど全部断っている。だから無理だという言い方だった。そこで考えている授業のスタイルを伝えた。尾島さんが一方的にしゃべるのではなく、生徒たちとの対話で講演を進めてほしいとお願いした。そうすると尾島さんの気持ちが少し和らいだような印象をもった。そこですかさず「とにかく一度考えてください。」と言って電話を切らせてもらった。翌日の夕方に電話するとまた電話に出てくれた。「どうですか？」と聞くと「う～ん」と考えている。そして追い打ちをかけるように「それにしてもどうしてわしなんじゃ？」と言われた。理由をもう一度言うてみるということだった。そこで「ボランティアに取り組んでいる考えについて話をいただきたい。」と伝えると同時に、「実はネットの画像を見ました。尾島さんが広島にボランティアに行かれた時、昼食をとりながら猫にもエサを与えていたシーンを」と伝えた。「その優しさに感動し、この人に来てもらえないかなと思ったんです。」と伝えた。すると「おやじさんはそんなところまで見ていたのか？」と喜んでくれた。そして「わかった。とりあえず前向きに考えてみる」という返事をもたらした。



2日後、再度自宅に電話すると「おやじさん、行くよ。行かせてもらおう」と返事があった。思わず「本当ですか？」と言ってしまった。

しかし、条件があった。「もし予定している日にちの近くで災害があり、ボランティアに出かけなくてはならない時には諦めてくれ。」ということであった。「わかりました」と伝え、とりあえず副校長だけには「OKをもたらした」と伝えた。ここでも「本当ですか？」と反応があった。

その後は校内で受け入れ体制を整え、できるだけマスコミ関係には情報が伝わらないよう、静かに区内への広報をするよう副校長に指示した。結果、各小中学校等に案内を出してもあまり大きな反応はなかった。「良かった。あまり大げさにならずに済む。」そのように思いな

がら年越しとなった。

年が明けて1月4日(金)。あまり多くの出勤職員がいない中、職員室から「テレビ大分の方から電話です」と連絡があった。「えっ!?!」と思いながら電話に出ると、「あ、そのうちの中学校に尾畠さんが行かれるんですか?」といきなり言われた。思わず「それどこから聞いたんですか?」と尋ねると、「いやー尾畠さん本人です。」と言われ驚いてしまった。そうか尾畠さんがしゃべったのか。それならしょうがない。



テレビ大分の方は、この7~8年、ドキュメンタリー番組の制作のために尾畠さん本人をカメラで追いかけているとのことだった。それでどうしても授業のワンシーンを入れたいとお願いされ、教育委員会と連絡を取りながら許可することとなった。

しかし、そこからが大変だった。何と同じ地元の今度は大分放送が私たちの局も全く同じ事をやっている。ぜひうちもお願いしたいと依頼があり、許可することに。さらにそれぞれの放送局の系列局からも同様のお願いが。結果的に、テレビ大分、大分放送、日本テレビ、読売テレビ、TBSなど。あっという間に5社。驚きました。



さて、いよいよ授業の当日。本校の同窓会長、貫井町会の会長さんらが尾畠さんを車で羽田に迎えに行ってくれた。本当に有り難かったです。また、テレビ大分の方も大分空港から一緒に飛行機に乗り、尾畠さんと行動をともにしてくれた。さらに、体育館でのマスコミ対応の仕切りもお願いすると快く引き受けてくれた。

そして、午後1時過ぎ貫井中学校に尾畠さんが到着。校長室に入って来られた時には思わず握手をしてしまった。また、お互いにハグまでした。その後はいろいろと、同窓会長さんや町会長さん、校長と雑談をしていよいよ授業となった。

授業はあっという間の時間でした。生徒たち自身が思っていたことや考えていたことを尾畠さん自身に尋ね、その堂々とした態度に感動した。

そのいくつかを振り返ってみると、2歳の男の子よしきくんを助けた際に「命の重さ」を改めて感じたこと。ボランティアで大切にしていることは、まず「相手を気遣う」こと。そして被災地では「笑顔」を大切にしていること。ボランティアの原動力はいろいろな人にお世話になった「恩返し」であること。また、ボランティアが「嫌」になったことはないこと。現在「お酒を断っていること」を生徒に尋ねられ、理由は東日本大震災の影響で作られた仮設住宅が無くなり、本当の復興が叶えられるまでは断酒していると答えたこと。亡くなった「お母様」が今でも心の支えになっていること。生徒たちに「皆さん精一杯学業に励んで勉強してください」と言ったこと。そして、授業の終了間際の「明日から歩いて大分まで帰る」と言ったことに会場中がどよめいたことは未だに強烈に記憶に残っている。



授業後はPTAの方々や同窓会の方々との座談会。教職員との懇談会。いろいろと続いたが、どの場面でも本当にパワーを感じ、パワーをもらいました。そして本当に優しい方で「NO!」という答えを言わない方でした。また、実に頭の回転が速い。そして人を笑わせる、喜ばせることを決して忘れない気を遣われる方でした。このような方と生徒たちを会わせることができ良かったなどあらためて思いました。

## 二年生百人一首大会

二年生の百人一首大会が1月25日(金)に本校の体育館で行われました。

この大会前には、各クラスの国語係が実行委員となり、各クラスでチームを決めました。また、冬休みの宿題には昨年と違う20首を各自が覚えてくることになっていました。そしてテストもありました。百人一首は日本の伝統文化。当日の体育館は少し寒かったですが、その寒さに負けず、各自一生懸命挑み、活気あるようすがあちこちで見受けられました。



## 中学校連合ダンス発表会

1月29日(火)に練馬文化センターで区立中学校の連合ダンス発表会が行われました。大会には1年C組の女子生徒が代表として出場しました。

大会では太陽・月・星〜輝く未来〜というテーマをダンスで演じました。

宇宙で太陽が燃え、月、星が輝く。そこへ隕石が落下して一度は輝きを失うが、隕石とともに再び輝き出すというストーリーを緊張しながらも精一杯ダンスで表現しました。

文化センターではビデオ、写真撮影は禁止されていたので出発前の生徒たちの様子を写真に撮りました。



### 部活動等の報告

男子柔道部…第30回東京都中学生学年別受動選手権大会：1月20日(日)

結果：男子個人戦 中学1年生男子軽量の部 1年 Kさん … 第5位  
中学1年生男子重量の部 1年 Nさん … 第5位

女子柔道部…第30回東京都中学生学年別受動選手権大会：1月20日(日)

結果：女子個人戦 中学1年生女子軽量の部 1年 Tさん … 第5位  
中学2年生女子重量の部 2年 Mさん … 第5位

3年社会科…「税の標語」平成30年度(全国間税会総連合会主催、東京国税局後援)

練馬東間税会入選…3年 Yさん 作品「税金が支える社会に日々感謝」

平成30年度中学生の「税についての作文」

練馬東税務署長賞 …3年 Tさん

練馬東納税貯蓄組合連合会会長優秀賞 …3年 島 康徳

3年人権教育…平成30年度全国中学生人権作文コンテスト練馬区大会

優秀賞…3年 Iさん、Eさん、Kさん、Tさん、Oさん、Kさん、Mさん、Sさん、Oさん、Sさん

平成30年度ジュニアリーダー養成講座

中級修了者 2年 Sさん

平成30年度練馬区教育委員会児童・生徒表彰対象者

1年 Yさん(水泳) 2年 Sさん(水泳)

3年 Tさん(チアリーディング) 3年 Tさん(チアリーディング)